

平成29年度 弘前市総合計画審議会議事概要（第9回）

まちづくり・なりわいづくり分科会

日 時	平成29年11月28日（火） 18時30分～20時30分		
場 所	弘前市役所3階 防災会議室	傍聴者	0人
出席者	委員 (6人)	森会長、熊谷委員、前田委員、山形委員、一戸委員、三上委員	
	事務局 (6人)	ひろさき未来戦略研究センター副所長、ひろさき未来戦略研究センター総括主幹、ひろさき未来戦略研究センター総括主査、ひろさき未来戦略研究センター主査、ひろさき未来戦略研究センター主事	
	その他		

会 議 概 要

1 開会

2 議事

次期弘前市総合計画の各施策案について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

①まちづくり

- ・雪対策の施策で、主な市民等意見に「ひとり暮らしの高齢者等の雪弱者のための排雪支援が不十分」という意見があると記載しているが、それに関する対策が見えてこない。例えば、介護保険を利用している人に対しては、介護保険で雪片付けをしてもらえるような弘前独自の取組があってもよいのではないか。
- 社会福祉協議会による高齢者などを対象とした除雪ボランティアや「地域除雪活動支援事業」など、雪弱者への対策も実施してはいるが、その部分がうまく計画に記載されていないので、表現等については修正したい。
- ・弘前公園周辺の魅力づくりの施策の現状分析の記載について、現状の記載内容であれば、民間事業者の参入を否定的に捉えているように感じられてしまうので、文章の表現を再検討した方がよい。
- ・人口減少や少子高齢化によって、町会においても活動できる担い手が不足しているので、その担い手不足に対する支援等はないのか。
- 「まちづくり」分野での町会の担い手不足に対する支援という考え方ではなく、重点プロジェクトの中で、地域コミュニティの維持・活性化に向けた取組や2025年問題への対応ということで担い手不足対策への取組を分野横断的に行うと整理している。

- ・文化財の保全を考えると、国指定や市所有の文化財だけを対象として考えているのか。景観保全という都市政策の観点から、民間所有の文化財についても、支援の対象としてもらいたい。

→文化財指定外の建造物についても、景観法等の指定制度を活用することによって、これまで支援制度がなかった建造物に対しても支援できるように制度設計するなどして、文化財の保全に取り組んでいる。

- ・「都市の美化・緑化の推進」の施策では、都市公園の利活用に関する内容が記載されているが、防災の視点も必要なのではないか。

→都市公園は、防災機能や憩いの場など多様な機能を有しているが、全ての公園に同じ機能を持たせると維持管理の面で負担となるので、効率的な維持管理を図るため再編等を進めていく必要があると認識しており、現状と課題の部分で整理している。

②なりわいづくり

- ・インバウンドについての実態としては、ほとんどの事業者は外国人観光客が来ると言葉が通じず戸惑っているのが現状なので、行政と観光コンベンション協会や商工会議所などと連携して市民を巻き込んだ外国人観光客受入のため雰囲気づくりの事業があってもいいのではないかと思う。

→飲食店で外国語のメニューを用意する費用などを補助する「外国人観光客受入環境向上事業」や、Wi-Fi及び免税店の整備などの受入環境の整備については、民間事業者と協力し、継続して取り組むこととしている。

- ・農業災害に対しての支援策が計画から読み取れない。

→災害の影響を最小限に留めるための観点から、桃やミニトマトなどの生産に対する支援を「りんご以外の農産物の生産力・販売力の強化」の施策で取り組むこととしている。また、果樹共済加入への補助制度も取組としてある。

- ・これまでの計画では、四大まつりの間の集客促進のためのイベントなどに力を入れてきたと思うが、次期計画ではその印象が薄くなったと感じる。政策転換の要因などはあるのか。

→四大まつりの間の集客促進は、「弘前デザインウィーク推進事業」などを行うこととしており、継続して取り組む予定である。

- ・IT系オフィスの進出を支援するとあるが、事務所の進出なのか、あるいは本社の進出なのか。本社の進出でなければ経済的な面でも雇用の面でもあまり効果がないのではないか。

→市内の大学を卒業した若年者の就職先としてのIT系オフィスの事務所を想定している。現在、弘前大学と連携した「お試しサテライトオフィス事業」を行っており、誘致に向けた取組を進めているところである。

- ・津軽塗については、津軽塗の製品に関心が行きがちだが、国産の漆の確保が困難になってきているという現状があるので、「漆掻き」にもスポットを当てて、漆工芸全体に対する支援を検討して欲しい。
- 「ひとづくり」の分野で、津軽塗の技術保存会への支援を行っており、市でも漆林を管理しているので、津軽塗の製品以外の支援についても計画に書きこむように修正する。
- ・地元企業で大卒者の正社員を雇用すると人件費で収益が圧迫され、生産性が低下するという状況に陥ることが想定されるため、大卒者の地元就職を推進するのであれば、企業に対する支援も必要ではないか。
- 市の調査でも市内企業の7割が大卒者の採用を希望していないという状況であり、同様の認識は持っており、地元就職を希望する学生と大卒者の採用を希望する企業とのマッチングを図るなど地元企業の大卒者の採用への機運を醸成するための取組を行っている。
- ・りんごについては、国外輸出が活発になることで国内での値段も安定するので、関係機関が協力して、今後も国外への輸出を増やしていくための取組を継続していくべき。ただ、ベトナムに関しては、弘前市や青森県などの関係機関がそれぞれ別々に取組を行っているので、窓口を一本化するなどの対応ができないものか。
- 次期計画においても、台湾は重要なパートナーとして位置づけており、また、ベトナムについても、販路拡大を進めていくこととしている。窓口の一本化については、検討するよう担当課に伝える。
- ・実際のりんご農家の立場に立って考えると、「日本一のりんごの生産地を維持する」というよりも「稼げる、働きたくなるりんご産業」へ成長させるということの方が、農家にとってはメリットがあり、施策の第一に掲げる方がいいのではないか。
- ・「観光入込客数」や「観光消費額」だけを指標にするのは、地域経済への波及効果を測るという点からは弱い。「観光入込客数」がどれほど増加しても「域内調達率」が増加しないと地域に金が落ちないので、「域内調達率」を指標として設定することを検討してはどうか。
- 指標としてのデータの取得方法に課題があるため、指標として設定するかどうかについては検討したい。
- ・首都圏の大学に進学した学生の U ターン就職対策として、地元企業に関する情報提供が出来る仕組みがあればいいと考える。
- ひろさき移住サポートセンター東京事務所では、首都圏の学生や移住検討者が地元企業の担当者と東京事務所で WEB 面接が行える環境を整備しており、市では引き続き U ターン就職を促進したいと考えている。
- ・りんごの他県産品種が多くなっており、青森県産の品種開発等に対する支援があってもいいのではないか。

③その他

- ・全体的に、エビデンスに基づいてやるということで対処療法的なイメージを感じる。計画に新しい取組や目玉となるようなものがないので、市民が夢や期待感を持つようなものがあればいいと感じる。
- 新しい取組等については、今後、予算と合わせて見せていく際に、工夫してわかりやすく見せていくことに留意したい。
- ・ロジックモデルについて、「目指す姿」や「現状分析」のページは左から右に読んでいくのに、施策のページになると右から左に読んでいくようになり、違和感があるので、計画書の見方や読み方などの説明が必要ではないか。
- 施策のページについては、計画を作る段階では、まず「目指す姿」があり、それを実現するために何をしていくのかということになるので、施策のページについても左から右に読んでいくこととなる。施策のページにある右から左の矢印は実際に事業を行った場合の効果がどのように「目指す姿」につながるかを表すものがある。ただ、事務局でも見方について説明が必要と考えているので、ページの見方についての解説ページを作成する予定である。
- ・それぞれの政策や施策に基準値と目標値を設けているが、目標値の設定の根拠はどのように整理しているのか。また、目標を設定するのであれば、強い意気込みをもって大胆な目標設定ができないものか。
- 目標値の設置については、各担当課において、これまでの傾向などを踏まえ、今後4年間での取組の結果を考慮した現実的な目標値を設定している。
- ・20年後の将来都市像を掲げているので、目標値についても、20年後の目標値があり、それを踏まえた上で、計画期間である4年後の目標値という整理ができればいいのではないか。